

平成31年度 東村山市立富士見小学校 第2回学校関係者評価報告書

学校教育目標 「すすんでやる子」

○かながえる子 ○おもしろ子 ○がんばる子

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 「ファイト&フレンドリー 自分を高めて みんなで伸びよう」 ①児童の自己教育力を育む学校 ②児童の自己実現を支援できる学校 ③開かれた信頼される学校

【目指す児童・生徒像】 自主性と積極性、強調性と思いやりの心をもち、自ら向上していこうと努める児童

【目指す教師像】 ○プロの教師(職員)として自覚をもつ ○組織人としての組織目標達成のために協調・協働して汗をかく ○教育公務員として法を遵守し服務は厳正に従う(マナー・モラル・礼儀)

前年度までの学校経営上の成果と課題

①プログラミング教育の研究を教員全員で取り組むことができた。②けやき教室での指導で学級での不適応が改善してきている。③オリパラ関係のゲストティーチャーを多数呼ぶことができた。

◆わくわくタイムを改善し体力向上に向けての取組をしていく必要がある。◆個々のニーズに合わせた学習をする必要がある。◆新たな読書の取り組みで本をさらに好きにさせる。

	具体的方策	第2回評価		課題と次年度以降の対策	第2回学校関係者評価
		努力目標	成果目標		
学力向上	・少人数での交流の場を授業の中で意図的に設定し、学びを深めるようにする。	4	3	(課題) 校内研究において研究の視点を明確にしたことにより、授業に生かすことができたが、他教科では担任裁量となり、取り組み方にばらつきが見られた。 (対策) 単元計画の中で対話的学習活動を重点的に行う場面を設定し、学年で計画的に取り組むようにする。また、授業観察に対話的学習活動を重点的に行う授業を設定し、低、中、高学年で見えるように授業日を設定する。	・校内研究でプログラミングを取り上げ、研究され、その成果を発表されたことは、大変素晴らしいと思います。今後も新学習指導要領の趣旨が生かされた授業実践を期待します。 ・先生方と子供たちが頑張っている様子、良い状態にあると思います。(個人差があるので大変でしょうが…)
	・ユニバーサルデザインの視点で誰にでも学びやすいような教室環境を整備する。放課後の時間の個別指導や東京ベーシックプリントを活用し、学力の定着を図る。	3	3	(課題) 東京ベーシックドリルを活用することがなかなかできなかった。 (対策) 学年内で教材研究の情報を密にし、専科の授業時に参観できるようにする。また、東京ベーシックドリル担当者(習熟度別算数)を決め、年度当初に東京ベーシックドリルの使用目的、プリント、データを確認し、算数、漢字の二つの取り組み方を示し、全校で取り組む。	・基礎的学力の定着はとて重要だと思えます。都・市で作成したドリル等の有効活用を目指してください。
健全育成	・年3回の学校生活アンケート・いじめ調査(全記名式)をもとに、個々の児童の実態や学級の傾向を把握し、指導改善を図る。	4	3	(課題) 傷つけられる言葉を言われたり、暴力を振るわれているという児童の数は減ってはきているが、不安や不満を抱えている児童、保護者も少なくない。 (対策) 今回の集計でポイントが上がっている(嫌なことを言われた児童が少なくなっている)ことを褒め、これからはその気持ちを続けていくように声をかける集会を開く。改善したことを評価していくことで、子供に相手のことを考えることを啓発していく。また、アンケートでは、自分自身の行動・言動を振り返るような文言に変更し、実際の実態を探っていく。	・言葉遣いの指導は、家庭との協力、そして継続した取り組みが必要だと思えます。一人一人の子供たちの良い面を取り上げ賞賛するなどの地味な指導を大切にしてください。 ・子供一人一人の受け取り方が異なるので、難しいことですが、心して温かく見守っていただければ、対話ができ、胸の内を明かしてくれるようになるので、時を待ち大切にしています。
	命と心の教育を重視し、道徳や図書の読み聞かせなどの授業改善を図る。また、これらの活動を年間3回程度は最低おこなう。	4	3	(課題) 特別な教科道徳として、授業実践を積み重ねてきた。授業を通して、教材のもつ価値観にふれ、児童は自分の思いや考えをワークシートに書いたり、発表したりすることが出来るようになってきているが、教師の評価については共通理解が不十分であった。 (対策) 評価についての研修会を今年度行い、次年度につなげていく。	・道徳の評価は難しいと思えます。評価のための指導でなく、いかに心を育てるかを重視することが大切だと思えます。
健康・体力づくり	・富士見わくわくタイムを年間7回設定し、児童が運動することが楽しい、もっとやりたいという気持ちにさせる。 ・児童同士で学び合える場を設定し、教え合いを通して運動の楽しさに親しませる。	4	3	(課題) わくわくタイムの設定時期やその他の取組について検討が必要である。保護者アンケートでは、ポイントは上がっているが、児童アンケートでは「外で遊んだり、元気に体を動かしてる。」で11%の子が「いいえ」と答えている。 (対策) わくわくタイムについては1年間をかけて検討していく。次年度は教員の準備がすばやくできるように各運動の場での説明書を作り、教育計画に載せていく。また、体育集会を3回行い、全校でマディアンに取り組み、授業に活かしていく。2月には「走ろう会」を中休みに実施する。	・運動が苦手な子、外遊びをしようとしないう子にとってわくわくタイムなどの取り組みは効果があると思えます。 ・外が好んで校庭が使えない日はプーイングはすごいものですが、数名は常に教室内で折り紙工作をして過ごしています。(女児)
	シャキピカカードを用いて生活習慣を意識させたり、振りかえさせる。	4	4	(課題) ①テレビやゲーム、動画視聴の時間が長く、家庭で設定した目標時間を超えている。②ハンカチを毎日身に付ける習慣ができていない。 (対策) ①個別、全体指導を適宜行う。(教員や委員会児童より)②集会時、給食準備中にマスク着用の指導を実施する。	・家庭学級委員と協力して、ゲーム、ネット、テレビを観ないで過ごす日の設定なども挑戦できるいいですね。
保護者・地域との連携	全校及び各学年で保護者や地域人材等のゲストティーチャーを計画的に活用するとともに、校内での体験学習の情報を保護者に発信する。	3	4	(課題) 道徳での紙芝居、サッカー教室、パラリンピアン、命の授業、セーフティ教室(薬物)、全学年でゲストティーチャーによる学習を行った。その他の学年ごとにお問い合わせいただいたゲストティーチャーについての情報を校内で更に共有化することが必要である。 (対策) 各学年で行ったゲストティーチャーの授業をまとめ、次年度に生かす。4月に1年間の計画を立てる際の参考にする。(予算を考慮する。)	・地域の施設や人材の活用はとて大切なことだと思います。これからも充実してください。 ・多才な内容、顔ぶれで有意義な授業が行われていると思えます。
	・ホームページや学校、学年、学級だよりを通して、保護者や地域にタイムリーな情報を発信する。	4	3	(課題) 学校便り、学年便り、学級便り、マチコミを通して、保護者・地域に情報を発信してきた。 ホームページの更新と活用について検討が必要である。 (対策) ホームページの内容や活用例等を明確にして、定期的に更新していく。	・学校からの情報が多すぎるとい声もあります。それぞれの便りを読んでもらえるような内容、紙面の工夫も必要なのでしょうね。 ・他者との繋がり、関心が希薄になってきている昨今、大変ですが、これからはもっと地域で支え合っていかなければ成り立たない社会になっていきます。
特色ある学校づくり	楽しんで学習できる体験活動を取り入れると共に、対話的な活動を通して学びを深めていくようにさせる。	4	3	(課題) パソコンや本を使ってプログラミングを考える授業が好きである児童が多いが(89%)、授業や活動内容に対して、苦手意識を感じている児童も11%はいることを配慮していきたい。 (対策) 校内研究を通して、授業を実践していき、児童に興味・関心をもたせ、一人一人の学習課題を明確にして、学習活動に取り組ませていく。	・児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするのは、正に教師の腕の見せどころです。様々な工夫を共有することが大切だと思います。 ・先生方が頑張ってくださいっているので、熱意が児童にも伝わるといいます。
	・司書と連携しながら学校図書を積極的に利用させ、年間を通して学年ごとの目標を設定し本に親しませる。(低学年50冊、中学年40冊、高学年30冊)	3	2	(課題) 1年間の読書目標(低学年・50冊、中学年・40冊、高学年・30冊)の読書に取り組んでいる児童の割合は高くない。(77%)読書月間・旬間、本に親しむ機会を設定しているが、児童にとって更なる動機づけを図ることが必要である。 (対策) 図書に親しむ機会を増やすために、図書わくわくを有効活用できる方法を考える。・読書月間を学期に1回ずつ設定し、取り組み内容を充実させていく。(賞状、読書紹介カード等)学級文庫を充実させていく。	・国語では、並行読書といって、教科書教材と関連(作者、内容、シリーズ)させて本に出合わせる方法も実施されています。 ・個人差が大きいですね。読書への突破口となるような本に出合えるとよいのです。